

「アを」「タイヤを回し  
て、資金も回す」と表  
現。「いままで使って  
いたタイヤをうまく回  
せばタイヤが伸び、タ  
拡充を図るため、東大

新本社営業所は、敷  
能。現在、新営業所は  
保管スペースに余裕を  
持たせているため、貸  
倉庫から一時保管など  
の協力会社を募集して  
いる。



大塚社長

同社長はソフト面に  
ついて「会社の風通  
しを良くして透明性を  
保つことで、働きやす  
い社風を作っている。  
それがドライバーの意  
欲にもつながる」と話  
した。

トナミホールディン  
グスは創業70周年を記



# 軌跡

## リレーインタビュー

### 社員にとって良い会社を

青翔運輸(埼玉東北葛飾郡杉  
戸町)の古谷隆之氏は、35歳で  
社長に就任。同社を率いて4年  
目となる。

なごころに顔を出していた」と  
いう同社長。同じ配車係という  
立場で、一緒に顔を出していた  
業務部長とは、「切磋琢磨し、  
しんどいときを一緒に乗り切っ

「会社を創ってくれているの  
は、こうした経営幹部も含めた  
社員全員」だとし、「先  
代同様、大切にしたい」  
と、給料は手渡しにこ  
だわっている。約10  
0人の社員と、給料日  
をコミュニケーション  
の機会として大切に  
している。

20歳で同社に戻ってからは、  
グループ会社の運営や新規営業  
所の立ち上げに携わってきた。  
「電話帳を片手に、取引先や協  
力会社を探した」と、縁のない  
土地での営業に苦労したとい  
うが、同業他社からも、「一緒に  
仕事をするうちに信頼され、専  
属でやりたいと言ってくれるよ  
うになった」と、徐々に運営は  
軌道に乗っていった。

### 青翔運輸 古谷隆之社長



社長に就任してか  
ら、社員の声を一層反  
映させたいと考えた。  
毎月の管理者会議と管

業会議では、その日の議長が自  
由にテーマを決めて議論する時  
間を20分間作った。「坂道の凹  
凸が荷物に悪いという意見か  
ら、その区間は高速を使うこと  
にした」など、現場の声を取り  
上げ、「お互いが何を考えてい  
るのか、意思疎通を図る場」と  
して機能している。「皆で決め  
ていいことは、皆で決断する」  
というのが、社長の方針。その  
背景には「社員にとって良い会  
社を目指す」という思いがある。  
今後も社内体制の充実に努  
め、今以上に「ドライバークラ  
仲間や息子を入れたいと思っ  
てくれる会社になりたい」と話す  
社長。「業界が違えば常識も違  
う」と、他業種の勉強会にも参  
加するなど、良い会社のかたち  
を模索し続けていく。

(柴田沙綾)